

ぜひ、あなたも  
参加しませんか

10月開催 情報一覧

この大会は、全国からのお客さまへのお土産作りをはじめ、お出迎えやご案内など、約2,000人の運営ボランティアに支えられています。

大会当日、全国のボランティアの方々と交流することも立派な「おもてなしボランティア」です。ぜひ、会場へお出かけください。ここでは、今からでも参加いただける行事をまとめてご紹介します。



運営ボランティアによるお土産のお手玉作り

	開催日	時間	会場	内容	お問い合わせ先
主催事業	29日(土)	10:00~17:00	グランメッセ熊本(上益城郡益城町)	ふれあい広場	実行委員会事務局 ☎096-324-5456 FAX 096-324-5427
		13:30~15:40	熊本市市民会館(熊本市)	引継式、ボランティアトーク、閉会式など	
	30日(日)	10:00~17:00	熊本城、熊本市市民会館など(熊本市)	交流広場	県央ブロック事務局 ☎096-322-2352 FAX 096-322-2352
		9:00~14:00	湯の端公園、八千代座など(山鹿市)		県北ブロック事務局 ☎0968-43-1134 FAX 0968-43-5926
		9:00~16:00	阿蘇市阿蘇総合センター(阿蘇市)		阿蘇ブロック事務局 ☎0967-32-1127 FAX 0967-32-4940
		9:30~16:00	水俣市立総合体育館(水俣市)		県南ブロック事務局 ☎0966-63-2047 FAX 0966-63-3570
		9:00~15:30	人吉市カルチャーパレス(人吉市)		人吉・球磨ブロック事務局 ☎0966-24-9192 FAX 0966-25-1117
9:30~15:00	本渡市体育館、本渡市民センター(本渡市)	天草ブロック事務局 ☎0969-24-0100 FAX 0969-22-4985			
協賛事業	18日(火)	10:30~11:00	各保育園近隣の公共の場など	保育所ボランティア活動の日	小天(おあま)保育園 ☎0968-82-2618 FAX 0968-82-3688
	22日(土)	10:00~12:00	県内各地域(約50カ所)	県下一斉クリーン作戦	熊本県手をつなく育成会 ☎096-352-4149 FAX 096-352-4149
		10:00~16:00	県内各地域	老人クラブ県下一斉社会奉仕の日	熊本県老人クラブ連合会 ☎096-324-2134 FAX 096-351-8029
	23日(日)	13:30~16:00	熊本市市民会館(熊本市)	ホームレスへの理解を深めるセミナー	熊本ホームレス自立支援の会 ☎096-242-1833 FAX 096-242-1833
	28日(金)	15:30~17:00	やつしろハーモニーホール(八代市)	ふれあい・いきいきサロン全国研究交流会の交流広場	八代市社会福祉協議会 ☎0965-32-2807 FAX 0965-35-8171
	29日(土)	16:00~17:30	水前寺共済会館(熊本市)	今なぜ国際ボランティアなのか(講演会)	熊本市国際交流振興事業団 ☎096-359-2121 FAX 096-359-5112
		9:30~11:30	上江津湖周辺(熊本市)	水面に輝ぐふれあい探鳥会	日本野鳥の会熊本県支部 ☎096-380-5301 FAX 096-380-5301
	30日(日)	10:00~12:00	熊本市産業文化会館(熊本市)	青少年赤十字のつどい	日本赤十字社熊本県支部 ☎096-384-2111 FAX 096-383-9486
		13:00~15:00	熊本信愛女学院高等学校(熊本市)	ボランティア活動を通しての国際理解教育の推進(活動報告など)	熊本信愛女学院高等学校 ☎096-354-5355 FAX 096-324-7292
			ホテルルートイン熊本駅前(熊本市)	外出支援フォーラム2005	熊本外出支援ネットワーク ☎096-312-8411 FAX 096-319-8040

お問い合わせ先

実行委員会事務局 ☎096-324-5456 FAX 096-324-5427

電子メール vof@kumashakyo.jp ホームページ http://www.vf-kumamoto.jp/

# 広がれ! ボランティアの 輪

第2回 子どもとお年寄りの交流 産山村子どもヘルパー活動

お年寄りとの触れ合いを

久住連山を一望できる豊かな自然に囲まれた阿蘇郡産山村立山鹿小学校(佐藤増夫校長)。全校児童七十六人のこの小学校では、総合的な学習の時間などを利用して「人暮らしのお年



自宅訪問(窓ふき)

寄り対象にした子どもヘルパー活動に取り組んでいます。活動しているのは四~六年生全員の四十一人。民生委員やシルバヘルパーと一緒に

手紙から直接顔の見える活動へ

きっかけは平成九年度から産山村社会福祉協議会の「やまびこネットワーク事業」に参加し、一人暮らしのお年寄りに手紙を書く活動を行ったこと。その後「直接顔が見える活動をしたい」という子どもたちの希望で、十二年度から子どもヘルパー活動が始まりました。

「おじいちゃん、おばあちゃんが笑顔で喜んでくれてうれしかった」お手伝いの後、昔の話や

学校の事など、一緒にお話しする時が一番楽しい」と子どもたちはお年寄りとの触れ合いを楽しみながら、この活動にやりがいを感じています。「六十五歳以上の方が三十一パーセントを超えるこの村で、子どもたちが高齢化や福祉について関心を持ち、自主的に行動できるようにしてほしい」と筑紫聖文教頭先生は話します。

さらに広がる「子どもヘルパー活動」

山鹿小学校では、昨年から毎週水曜日の朝の約十分間、校庭の清掃を行う「ボラレンジャー」という活動が子どもたちの間で自発的に始まりました。「まず、自分たちの学校からきれいにしないとね」これからは家の近くでも、困っているお年寄りがいたら助けてあげたいと子どもたち、中学校に進学した後も「シニアヘルパー活動」として継続されるこの子どもヘルパー活動」着実にボランティアの輪が広がりをみせています。



ふれあいサロン(ミニゲーム)



山鹿小学校の子どもたち